舞鶴小学校
学 校 通 信
文責
校長 小林史治

羽ばたく子

2020.5.11 №2

※学校だよりのタイトル『羽ばたく』は，甲府市出身の宮沢和史さんに作詞作曲していただいた，舞鶴小学校の校歌の歌詞の一節です。「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」なって欲しいとの願いをこめてタイトルとしました。

教科書等の配布へのご協力をありがとうございました

コロナウィルス感染の終息が見えない中、学校は５月２４日（日）まで臨時休業が延期されました。

子ども達がいない学校になって、そろそろ３ヶ月になろうとしています。子ども達がいない学校は、ただの建物でしかなく、「子どもがいてくれるから先生になれる」ことを痛感しています。それでも学校では「今できることを今する！」を合い言葉に、子ども達の学習支援のため教材を作成したり、子ども達の様子を確認するため電話連絡をさせていただいたりしています。

１１日と１２日には、これまで出した課題を確認し、来週取り組む新たな課題を配布させていただきました。配布にあたっては、配布物が個人情報にあたるため、また確実な受け渡しのため、お忙しいことは十分承知しながらも保護者の皆様に学校においでいただきました。保護者の皆様方には、お願いばかりで申し訳なく思いつつ、このような状況下での学校の取り組みに対して、ご理解とご協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

２４日の入学式にはピカピカの１年生の元気な姿が、２５日の始業式には、一つ上級生になった子ども達の素敵な笑顔が戻ってくることを信じて教職員一同、その日のための準備を進めております。引き続き、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、本校教育へのご理解とご協力をお願いいたします。なお改めまして、感染拡大防止のため、ご家族におかれましても健康に留意していただきますよう再度お願い申し上げます。

教科書を配布しました

本来であれば、入学式や始業式に配布すべき教科書を４月８～１０日に配布させていただきました。教科書は、その学年で学ぶことを上手に整理して、分かりやすくまとめられた本です。忙しい時間の中、せっかく家に持ち帰っていただいた教科書なので、そのまま積んでおくのはもったいないです。ワクワク・ドキドキしながら読むことは難しいかもしれませんが、教科書を開いて何が書いてあるのか確かめ、一度は読んでみるようお子さんに働きかけてください。一年間の学習を見通せるだけでなく、「国語の物語」や「社会の日本の工業」など、お子さんの興味や関心を高めたり、広めたりする内容を見つけることができると思います。

ＧＷ中の課題を配布しました

２１～２３日には、ＧＷを前にして、家庭での課題を配布させていただきました。山梨県でも感染者数が増加してきたことを踏まえて、透明シートを介しての配布となりましたことを申し訳なく思います。当日は、課題だけでなく新しく着任した担任もご挨拶をさせていただきました。臨時休業中、電話連絡等により情報をいただいておりますが、新しい環境の中、子ども達への支援が少しでも円滑に進むようご協力をお願いいたします。なお当日は、「大事袋」等、各種資料や提出物なども併せてお渡ししましたので、期日を確認し、お忘れなきようご協力をお願いいたします。

【お知らせ】

「自転車の安全で適正な利用の促進」に関する県条例が出されましたが、**「自転車に乗る人（未成年者の場合には保護者）は、自転車損害賠償責任保険等に加入しなければならない。」**という内容となります。傷害保険等に自転車が付帯プランとして入っている場合などもあろうかと思いますが、一度保険内容をご確認いただけるとありがたいです。いずれにしましても、自転車に乗っている子どもが加害者とならないよう（もちろん被害者にも）、ご家庭でのご指導と共に、万が一に備えて保険のご確認や新規契約等の準備をお願いいたします。

【家庭配布用】　※地域回覧用，HP 掲載用にはお子さんの氏名は載せません。

ふるさとを愛し、羽ばたく子に

学校長が、一年間の学校経営をどのようにしていくのかを表すために「スクールプラン」があります。後日、「スクールプラン」については、配布させていただきますが、今回子ども達向けに作成したスクールプラン「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」をお配りします。本来であれば始業式でお話しをしようと思っていたのですが、このような状況なので、ご家庭で一読いただき、お子さんに伝えていただければ幸です。

さて、本校の校歌は既にご存じだと思いますが、とても素晴らしい「詩（うた）」であると思います。歌詞の繰り返しにあるように「羽ばたく」子になって欲しいと心より願います。

どこから「羽ばたく」のか、私は、学校はもとより、学校の礎である「ふるさと舞鶴（相生・穴切・春日）」から、と思います。それは、「ふるさと」を捨てるという意味ではありません。将来、自らの地区に残る子もいるでしょうし、或いは「ふるさと」を巣立って県外や外国で活躍する子もいるでしょう。「羽ばたく」とは短期間では「学校からの卒業」となるでしょうが、人生という長い期間を当てはめるならば、最終的には「自立した社会人としての成人になること」だと思います。

子ども達が大人になって、どこで、どのように過ごしていても、小学校の校歌を口ずさみ、ふと「原風景」である「ふるさと」に想いを寄せたとき、疲れた時には安心して戻れる場所があることを胸に、自分の「ふるさと」を愛し、「ふるさと」に誇りを持ってあゆむ人になってほしいと願っています。

どのように「羽ばたく」のか、私は、子ども達に「舞鶴小の校歌」に示されたことに取り組んで欲しいと思います。即ち、校歌が子ども達にとっての「スクールプラン」なのです。

まず歌詞の一番にあるように、何よりも一番大切なものは「命」です。「生まれた生命」を大切にしてほしいと願わざるを得ません。東日本大震災から９年がたちました。また、コロナウィルスの感染拡大回避が最重要課題です。子どもたちには、いわゆる危機回避能力としての危険を予知する力、危険から自分の命を回避する力をつけてほしいと思います。

次に、富士を仰いで育む「思い遣る心」を醸成するためには、挨拶や「思いやりの言葉」がけを大切にして欲しいということです。ご家庭では親として、地域では大人として、子どもたちに声をかけてあげてください。そして、大人として、子どもたちに正しい行動を教えてあげてください。

また、「学舎」での「学び」は、子ども達が成長する上で必要な「知と価値」を学ぶことです。本年度から、新学習指導要領に基づいた「学び」を行っていきます。この「学び」では、先生や友達の話を聞くこと、考えて、つないで自分の言葉で言ったり書いたりすることが大切です。

さらに、他者を思い遣る心と健康な体がなくては、「人の傘」にはなれません。健康を維持するためには、「早寝・早起き・朝ごはん・朝トイレ」がまずは大切です。ご家庭でのお子さんの様子はどうでしょうか。遅寝、ギリ起き、朝ごはん抜き、トイレ抜き、のお子さんはいませんか。ぜひ、規則正しい生活を送ることができるよう、ご協力をお願いいたします。また、テレビやゲームは、ほどほどに、しっかりと体を動かして心と体のリフレッシュをさせてあげてください。

最後に、「友の手を引く」子は、学校でも家庭でも大切にしてほしい部分です。「友の手を引く」ためには、３つの暴力を禁止します。一つは、文字通り「力」の暴力です。ふざけて・調子に乗ってと叩いたほうは楽しいかもしれませんが、叩かれたほうは楽しくありません。また、陰口やひそひそ話のような「言葉」の暴力も、そもそも他人に聞かれては困るような内容の話をする必要があるのか、ということです。仲間はずれや差別などの「集団」の暴力については、直接体への被害はありませんが「心」に深い傷を持たせることになることは、十分理解できるものと思います。

「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」は、全ての子どもが、相手をリスペクトし、明るく温かい雰囲気の中で、短所を補いながら自らの良さを伸ばし、地域・社会に貢献できる社会人の素地としての「思い遣る心」を醸成しながら、「知・徳・体」のバランスのとれた健全な子どもたちを育成したい、という願いを込めた「子ども達向けのスクールプラン」なのです。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、昨年度にも増して、本年度の本校教育へのご理解とご協力をお願いいたします。「全ては、子ども達の笑顔のために」

校歌

作詞・作曲　宮沢和史
編曲　長田直也

緑の杜に　生まれた生命
富士を仰いで　育む心
新たな歴史　刻む学舎
羽ばたいてゆこう
舞鶴のように

雨が降る日は　人の傘となり
風が吹く日は　友の手を引く
溢れる夢を　描く青空
羽ばたいてゆこう
舞鶴のように

溢れる夢を　描く青空
羽ばたいてゆこう
舞鶴のように